

橘構成員提出資料

若年女性を取り巻く現状

bond *Project* 特定非営利活動法人 BOND プロジェクト

2006年「VOICES MAGAZINE」始動、2009年 NPO 設立

聴く。

ありのままの声を聴き表現できる場を作る。

LINE 相談、メール相談、電話相談、面接相談、
bond@ あらかわ相談室、ネットパトロール、街頭パトロール、アンケート、
カフェ型移動相談

伝える。

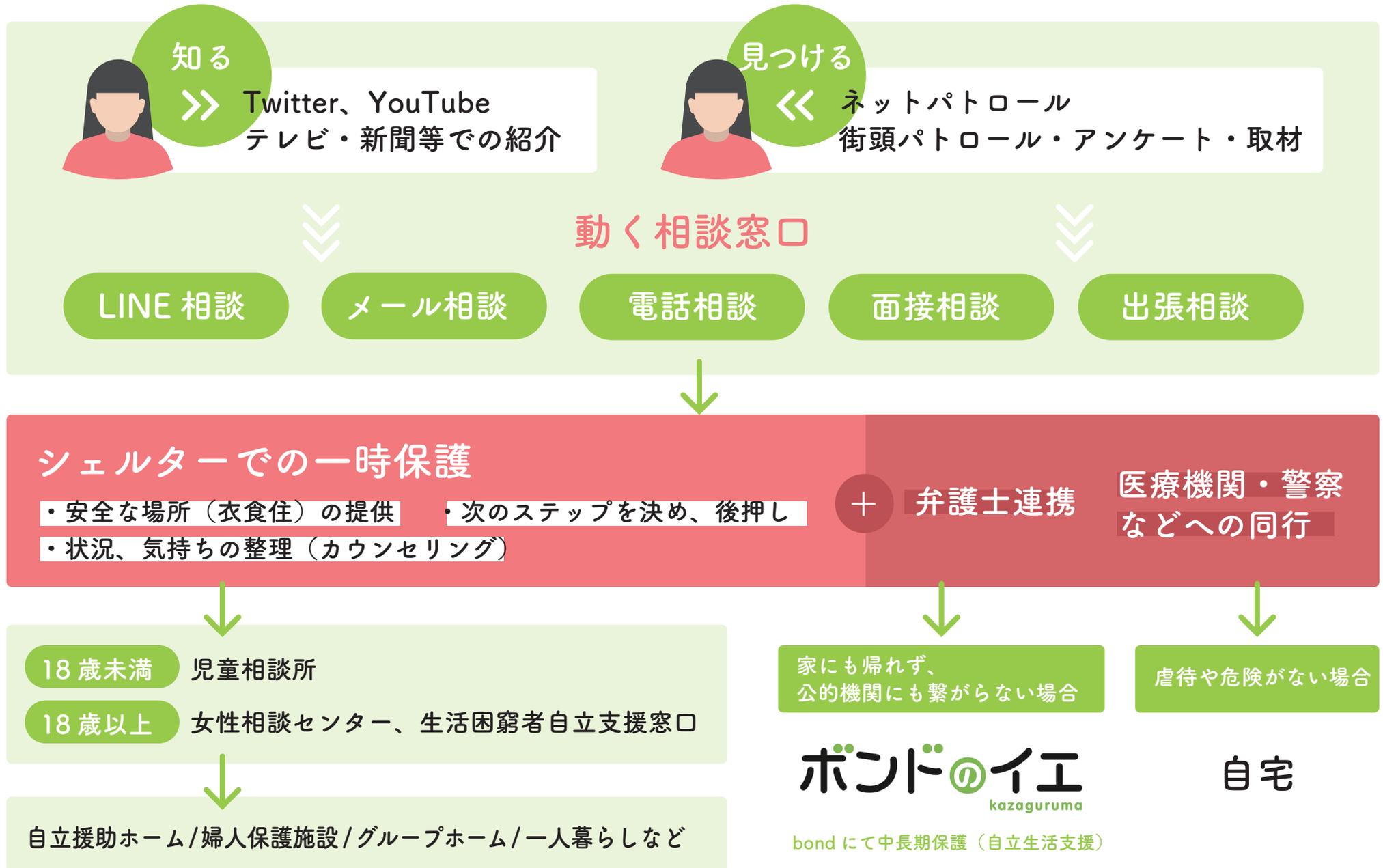
女の子の声を知ってもらう。

フリーペーパー「VOICES MAGAZINE」発行、講演会・啓発活動、
10代20代女性を対象としたイベント、
渋谷のラジオパーソナリティー「渋谷の漂流少女たち」

繋げる。

一人一人に見合った支援、大人に繋ぐ。

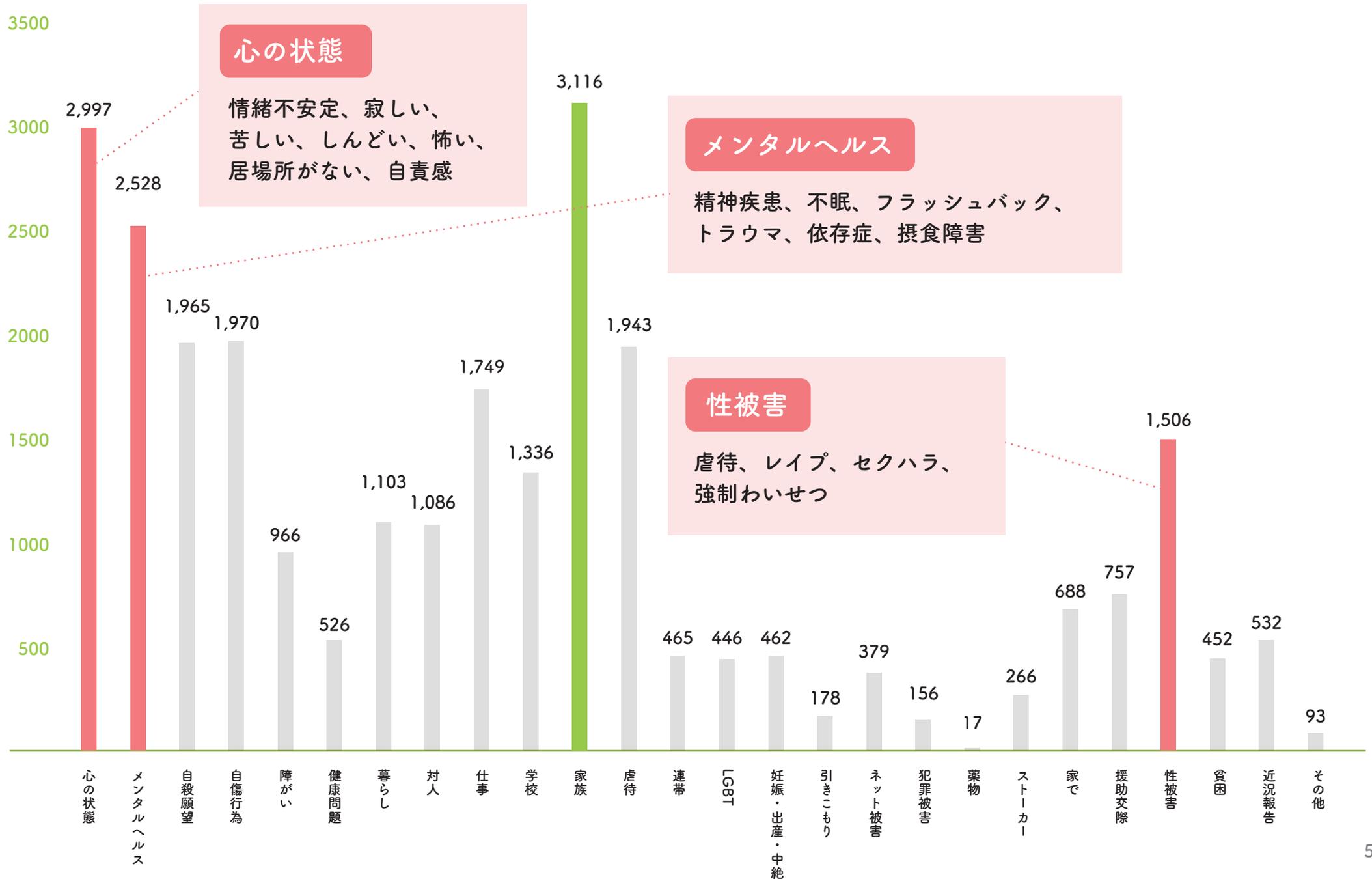
弁護士と連携し、他専門機関へ繋ぐ
一時保護、同行支援
中長期保護（自立生活支援）



	メール	LINE	電話	面談	同行支援	保護
4月	1,197	1,206	122	108	3	62
5月	1,358	1,370	139	94	7	50
6月	1,059	1,149	129	64	7	32
7月	1,046	1,130	161	65	6	35
合計	4,660	4,855	551	331	23	179
2017年度	12,135	4,941	1,760	996	40	692

相談・支援体制

メール	24時間受付
LINE	SNS事業 週5回・各4時間 若草プロジェクト 週3回・各4-5時間
電話	bond本部 随時対応 bond@あらかわ 週3回・各3時間
面談	bond本部 随時対応 bond@あらかわ 週3回・最大3名/日
同行支援	福祉事務所、病院、警察、児童相談所、婦人相談、各種手続きなど



なぜ相談に至らないのか。

- ✓ 情報を知らなかった
- ✓ 危害を加えたり利用する大人ではない大人（安全な大人）との繋がりがなかった
- ✓ 人間不信、大人不信

否定される、理解してもらえない、受け入れてもらえない、
見捨てられたくない、親や学校や友達にバレてしまう（これまでの経験より）
- ✓ 「普通」でいたい
- ✓ 自分だけかと思っていた、とてもじゃないけど言えない
- ✓ みんなそうかと思っていた、当たり前のことだから言う必要がない
- ✓ 「娘と父親はみんなこうしてる」と父親から聞かされていた（性的虐待）
- ✓ 自己肯定感が低い

自分が悪い、自分なんかが相談してはいけない、もっと辛い思いをしている人がいる、
自分なんてどうなってもいい
- ✓ 親を悪者（または犯罪者）にしたくない、迷惑をかけたくない、悲しませたくない、
されている事は嫌だけどこんな目にあっても親が好き
- ✓ 役所、相談先などに親族や知り合いがいる（地方の子に多い）

家

虐待、安心できない
食べるものがないなど



家のことは話せない
いじめ、教師との不和
学校にも行けていないなど

学校

逃げよう・・・でも家出しか方法が思いつかない

警察補導

保護、
家に帰されるケース多数

公的機関

情報を知らない、
手続きが煩雑、時間がかかる

✓ 行くあてがなく
彷徨う

✓ 未成年、身分証がない
✓ ネットカフェ、カラオケ等深夜はいられない

✓ お金がない
✓ 働けるところがない

SNS を利用して居場所を求める、街で声をかけられた人について行く

すぐに行ける場所、受け入れてくれる人、困ってる自分を助けてくれる人、寂しい時一緒にいてくれる人
(危ないかもしれないけど・・・)

泊め男

犯罪に巻き込まれるリスク

性被害性的搾取

背景・経緯

座間9遺体事件

2017年10月、神奈川県座間市のアパート内で9人の遺体が見つかった事件。被害に遭った10代20代だった女性たちとの接点は交流サイト（SNS）。女性たちが自殺をほのめかすような投稿をしたところ、協力するふりを装って接近したとされる。被害女性には bond Project に来る相談者にとっても近い印象を受けた。

2018年3月、厚生労働省自殺防止対策事業として「SNSによる相談事業」施行。

ネットに居場所を求める若年女性へのアプローチ、気軽且つ早いレスポンスで会話ができる LINE 相談の強化。

- ✓ ハイリスク者の**早期発見・早期介入**
- ✓ **リアルタイム**でのやりとり
- ✓ bondProjectの既存の支援面談、保護、専門機関への連携に**繋ぐ**



ネットパトロールを担当しているのは同世代の女の子。

公的支援に繋がれない、制度に辿り着けない女の子たち。

- ・次に繋がらないまま18歳になり児童福祉法による支援が終了
- ・学校には通えているが虐待家庭にあり居場所のない大学生

➤ 行く場所がない、お金がない、自立準備のための拠点がなため、居場所はネットカフェ、公園、SNSで知り合った男性宅、カラオケ、ネットカフェ。



このおうちで女の子に提供するもの

- 1 安心できる生活（衣食住）
- 2 生活習慣の獲得（料理・洗濯・掃除・お風呂の入り方・食べ方）
- 3 心のケア（ボンドスタッフとの会話・面談、臨床心理士によるカウンセリング、共同生活者との関係づくり）
- 4 つながりを増やす（必要に応じて他の支援機関や自助グループなどの紹介）
- 5 自立へのサポート（仕事を探す、自立までの計画を一緒に立てる、家探しなど自立準備の補助）

いろんな経験や繋がりを自分のものにし、自分の足で立つ力を後押ししたい。

2017.7 始動。定員2名。

中長期入居人数：5名、短期保護：14名、保護延べ件数：751件（2018.7 現在）

1、困難を抱える若年女性のケアの充実

虐待や性被害など「被害者」と認められるためのハードルが高いがために、泣き寝入りをせざるを得なかったり、親に援助してもらえない、保険証が手元にない、交通手段がない、お金がない、周りに知られたくない等の理由により、心身のケアや支援を受けることができないまま孤立してしまう女性も多いです。

2、各行政相談機関・各警察署における、 若年女性に特化した問題に詳しい担当者の配置

各相談窓口や警察署へ相談に行くまでもハードルが高く、被害者が自身の生活やお金、精神を削りながら相談に通うにも関わらず、心ない対応をされてしまったり、「警察に相談に行っても安心できない」「二次被害を受け、問題が増えてしまった」ということも大きな問題だと考えています。受けなくていい被害を受けてしまった人が「相談してよかった」と思えるような心ある体制づくりが必要です。

3、bond 支部の設置

全国から寄せられる相談に対し、状況に応じて出張面談及び地域の相談機関への同行支援なども行ってきたが、遠方に対応するには限界もあります。全国に支部を増やすことで、より早急に問題解決に向け動き出すことができ、継続的な支援を行うことができます。

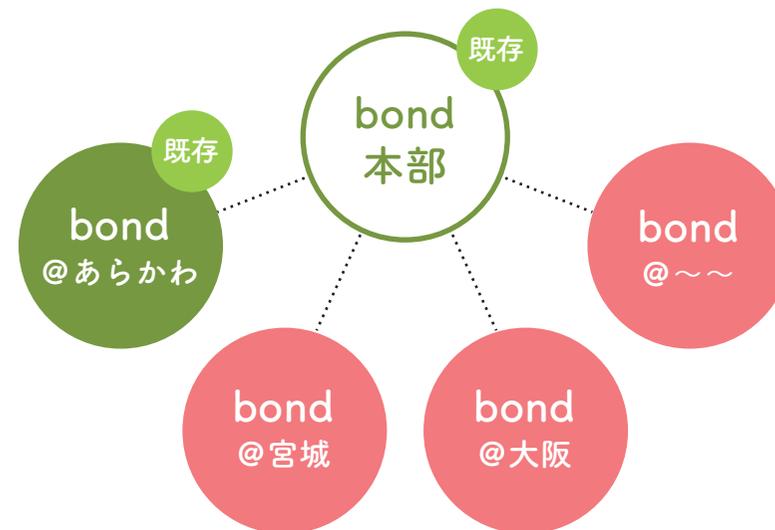
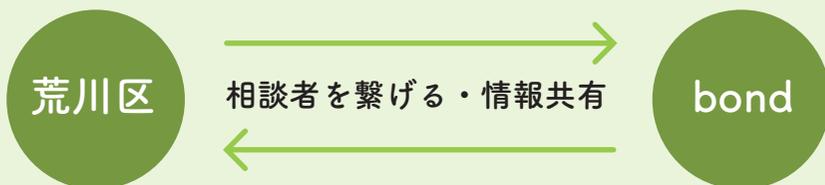
<背景>

17歳までは児童相談所、18歳以降は婦人相談所への相談となるが、18歳になり児童相談所の支援が終了することで、そこで支援がぶつ切りになってしまうケースも多い。また、高校生であるのに17歳から18歳になることで支援内容が変わってしまうこと、若年女性が高齢女性と全く同じ支援の枠組みに収まることが困難であること等より、細かい年齢差で支援がぶつ切りにならないような「若年女性」という枠組みでの支援、中長期的なトータルサポートができる場所が必要である。

ex. 荒川区より委託を受けている「あらかわ相談室」

荒川区における若年世代の自殺予防相談事業

- ・相談対応（メール、電話、面談）
- ・緊急時の保護、同行支援



支部イメージ図

4、相談窓口まで辿り着けない女の子たちが、 気軽に立ち寄れる居場所づくり

「相談窓口」は女の子たちにとってハードルが高く、辿り着けない子も多いです。また、段階として「今」はまだ、相談することまで望んでいない子もいます。しかし、困っていたり悩んでいることに変わりはなく、居場所や相談のきっかけ作りは必要です。

また、一晩の居場所があり休むことができれば落ち着く場合もあります。気軽に立ち寄れる場所があることで、犯罪被害や性搾取の防止にも繋がります。

ex. 以前運営していた「café MELT（カフェメルト）」

- ・ 24時間営業インターネットカフェ（通常のカフェスペースもあり）
- ・ 深夜帯は女性専用
- ・ カフェスペースでは女の子向けのイベントなども開催
- ・ お客さんとして女の子が気軽に立ち寄れる
- ・ bondスタッフがカフェスタッフを兼任→ハードルを下げた関わり
- ・ NPO事務所も併設→状況に応じ相談や緊急時の保護も可能



ハシゴを上がると、
休めるスペースに！

